

2024年3月29日

アセットマネジメントOne株式会社

マテリアリティ・マップの更新について

アセットマネジメントOne株式会社（東京都千代田区、取締役社長 杉原 規之、以下「AM-One」）は、マテリアリティ・マップの更新を実施したことをお知らせします。

AM-One は、「未来をはぐくむ」うえで障壁となっているグローバルな環境・社会の重要な課題を特定し理解するため、「サステナブル・マテリアリティ」と「フィナンシャル・マテリアリティ」の2軸で分析を行い、2021年10月に独自のマテリアリティ・マップを策定いたしました。

今回の見直しでは、以下の通りマテリアリティ・マップを更新いたしましたので、ご報告いたします。

① フィナンシャル・インクルージョン（追加）

誰もが取り残されることなく正規の金融サービスへのアクセスができ、恩恵を受けられるようにすることを意味する。特に、発展途上国・新興国における個人・中小零細企業のアクセス改善を念頭にしており、経済的な機会損失や健全な経済成長の阻害といった負の影響を鑑み、新たに追加。

② AI・デジタルイノベーション

（「AI・デジタル対応の遅れ」と「イノベーションの停滞（経済発展の阻害）」を統合したうえ名称変更、位置変更）

AI・IoTなどのテクノロジーは分割が困難であり、テクノロジー開発と実装に関する課題という意味においても共通していることから2つの名称を統合。また、AIによる経済的ポテンシャルが高いことから、重要度を横軸2、縦軸5に位置づけ。

③ 世界的なテクノロジー規格の欠如（削除）

技術開発と競争が進み、世界的なテクノロジー規格が一定程度収斂しつつあるとの認識から、重要度が低下していると評価したため、削除。

④ 自然ハザード（「気候変動以外の自然災害」から名称変更）

自然現象とそれによって引き起こされる被害（災害）との区別を明確にすることによって、自然災害＝不可避とするのではなく、防災や減災への一段の意識向上や取組みを促すため、名称変更。

⑤ **リスキリング・リカレント教育**（「将来に向けた技術獲得と構造的な失業と収入の低下」から名称変更）

「リスキリング¹」「リカレント教育²」という言葉が社会に浸透し始めたと判断し、名称変更。

⑥ **技術の進歩がもたらす負の影響**（サステナブル・マテリアリティ軸上で一段階上に位置変更）

AI技術の急速な発展と普及に伴った潜在的なリスクが高まっていると判断し、重要度を変更。

⑦ **デジタルパワーの個人・企業・国家への過度な集中**（サステナブル・マテリアリティ軸上で一段階下に位置変更）

各国規制の強化により、企業が個人情報を収集する際に、個人情報へのアクセスレベルの選択肢を個人が持てるようにすることが社会規範になっていると判断し、重要度を変更。

⑧ **水・大気・土壌汚染**（フィナンシャル・マテリアリティ軸上で一段階右に位置変更）

化学物質リスクへの問題意識の高まり、損害コスト試算³の結果を踏まえ、重要度を変更。

AM-One は、マテリアリティ・マップを「投資の力で未来をはぐくむ」資産運用会社となるための基盤として、エンゲージメントや議決権行使、投資判断、商品戦略やコーポレート・サステナビリティ等、当社の幅広い事業活動における指針の一つとしております。今後も全ての方の資産形成に資するよう、サステナブルな商品・サービスの提供を通じて、持続可能な社会とお客さまの未来に貢献してまいります。

マテリアリティ・マップ更新の背景については、[One Sustainability Insight](#)にて解説を公表していません。

1 リスキリング：新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する／させること。リスキリングは会社が主導。技術革新やビジネスモデルの変化に対応するために新しいスキルを学ぶこと。

2 リカレント教育：社会人になった後も教育機関や社会人向け講座に戻り、学び直す。リカレント教育は個人主導による学び直し。

3 Chemsec “The top 12 PFAS producers in the world and the staggering societal costs of PFAS pollution”(<https://chemsec.org/reports/the-top-12-pfas-producers-in-the-world-and-the-staggering-societal-costs-of-pfas-pollution/#the-real-costs-of-pfas>)（2023年11月27日アクセス）

2050年までのPFAS（永遠の化学物質）の除去コストおよび医療費を合算した総社会コストを年間4.7兆ユーロと試算。

【変更後のマテリアリティ・マップ】



なお、2022年度中のマテリアリティの変更については、「[サステナビリティレポート2023](#)」にて公表しております。

【アセットマネジメントOneについて】

アセットマネジメントOneは、2016年10月に発足した資産運用会社です。「投資顧問事業」と「投資信託 事業」の双方の事業領域における運用資産残高(※)は、約65兆円と国内有数の規模を誇ります。AM-One がこれまで培ってきた資産運用に係わる英知を結集し、「投資の力で未来をはぐくむ」をコーポレート・メッセージに掲げる資産運用会社として、グローバル運用リサーチ体制に支えられた伝統的資産のアクティブ運用や金融工学を駆使した最先端の運用戦略 等、個人投資家や機関投資家の多様な運用ニーズに対し、 最高水準のソリューションの提供をめざします。

※運用資産残高は2023年12月末時点。

公式HP <https://www.am-one.co.jp/>

商号等 / アセットマネジメントOne株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第324号 加入協会 / 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会